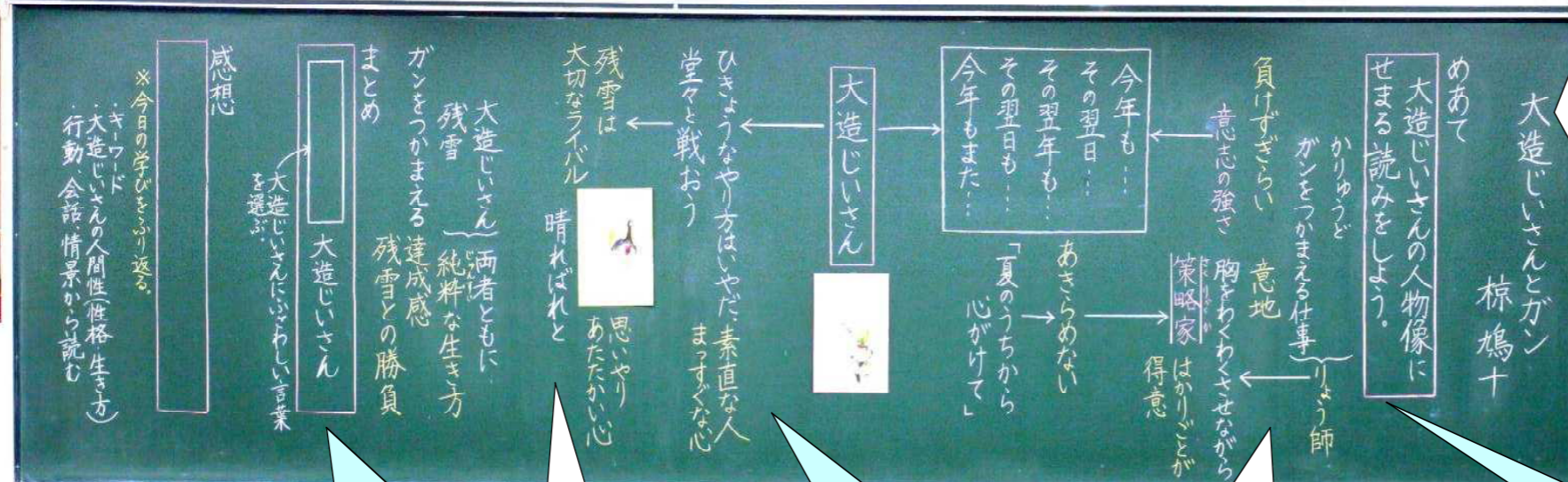


# <ステップ2> 授業を実践する

参考文献「小学館 『京女式 板書・発問術』吉永 幸司・編著」

板書のポイント  
大造じいさんの人物像をまとめるとき、大造じいさんのことを知らない人にも伝わるような言葉を選択させる。  
感想には、大造じいさんの人物像について、友達のと自分の考えを比較させ、学びの深まりを振り返らせる。また、感想を書くときのキーワードを示す。



教材文と作者名は、毎時間、丁寧に書く。本時の読み（学習）のめあては、赤線で囲む。読みのめあてと、まとめの整合性をはかる。学習課題の解決がまとめにあたる。

板書のポイント  
大造じいさんの人物像を表す文と結びつけて板書していく。考えたことや感じたことは色チョークで表す。読みの深まりを視覚的に捉えられるようにする。

本時の目標  
大造じいさんの人物像を文章から読み解き、短文にまとめることができる。  
主な学習活動  
読みの観点（行動・言葉・情景描写）を整理しながら、大造じいさんの人物像にせまる。

国語  
五年生「大造じいさんとガン」

発問③  
「大造じいさんのことを知らない人に、短く的確に、『こんな人ですよ』と紹介するつもりで人物像をまとめて書きましよう。」

発問②  
「ノートにまとめる時は、大造じいさんの人物像が表れている言葉から、考え付いた新たな言葉につなげていきましょう。大造じいさんの人物像がもつとはつきり浮かび上がってきますよ。」

発問①  
「大造じいさんの人物像が表れている文はどこですか。線を引き、そこから読み取れる人物像を表す言葉をノートに書き出しましょう。」

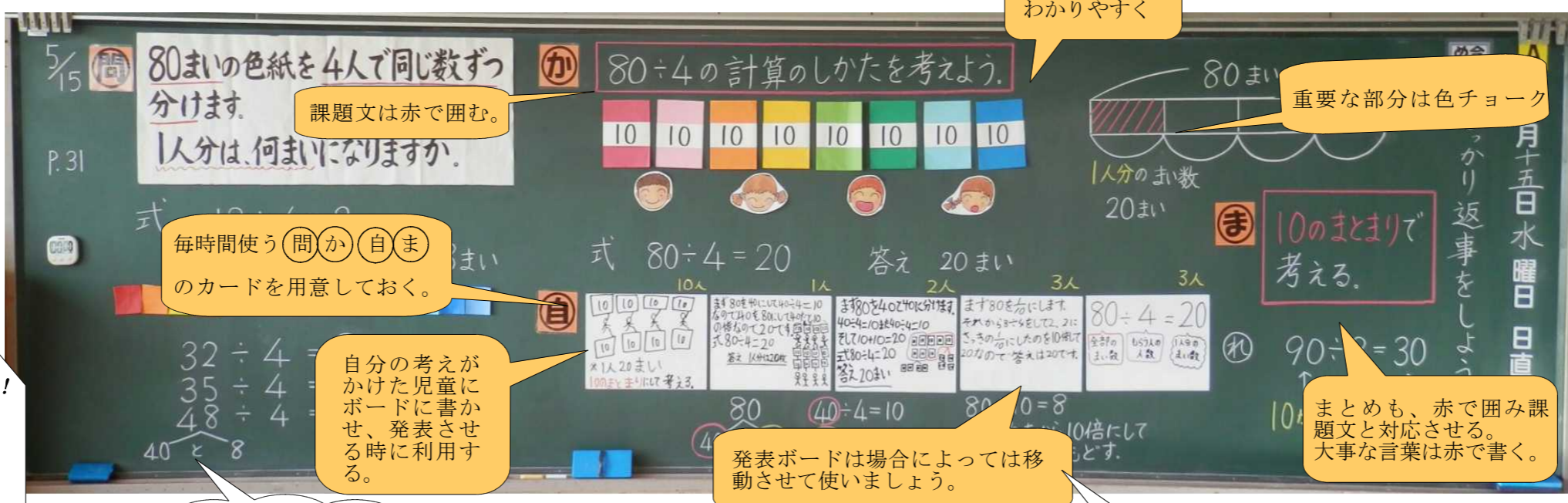
人物像は、性格だけでなく、行動や習慣、考え方も読み取れることを押さえる。その際、教材文の叙述に即して考えさせ、新たな言葉に置き換えさせると、読みが深められる。

書き出した後、グループで交流させる。

学び合いの設定  
学級のなかで、どのように入っているか、そのまなざしを合わせる。授業中、友達の進捗を確認し、必要に応じて質問や助言をする。学び合いの場を深めるように設定し、全員が参加できるように工夫する。

# 算数

4年生  
単元名：「わり算の仕方を考えよう」  
本時の目標：九九1回適用で商が何十や何百になるわり算（余りなし）の計算の仕方を理解し、その計算ができる。



1時間の学習過程を明確に！  
①つかむ 問題提示 課題設定 (問)  
②見通す 結果の見通し、方法の見通し (か)  
③とく 自力解決 (自)  
④くらべる 話し合い (小集団、全体)  
⑤まとめる まとめ (ま) 練習

発問①  
「前の時間に学習した  $32 \div 4$  の割り算と  $80 \div 4$  の計算は、どんなところが違いますか。」

発問②  
「 $80 \div 4$  の計算の仕方を考えましょう。友だちの考えと似ているところはどこでしょう。比べながら聞きましょう。」

発問③  
「自分の考えを発表する時は、そのわけも説明しましょう。聞いている人は、より分かるために質問や意見を言いましょう。」

ノートの書き方

発問の機能  
○興味・関心・経験を探り学習への意欲付けを図る。  
○何について調べたり考えたりすればよいかと学習の目的を明らかにする。  
○学び方（手立て・解き方）の方法や見通しをもたせる。  
○子どもの反応から理解の深浅・誤りを把握し、新たな問いへ発展させる。  
○評価や学習の定着度を評価する。

